重点施策（素案の案）（案）　（令和2年8月26日現在）

資料２

ふくしま新ステージ有識者懇談会からの重点施策全体に係る意見等	**○重点施策については、各課単独で行うのではなく、部局横断的に連携し、より広範に展開するべき。** **○重点施策は、将来構想を実現するために重点的に取り組む内容がイメージできるよう、インパクトがあるものにするべき。** **○新しい知恵や改革等を打ち出せるような重点施策が必要。** **○これからの行政は複眼的な見方と発想が求められる。**

基本方針	重点施策（素案の案）（案）		重点施策の内容（イメージ）	ふくしま新ステージ有識者懇談会からの主な意見（4/27、7/28）
1 子どもたちの未来が広がるまち	(1)	えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現	① 保育施設・放課後児童クラブにおける待機児童の解消に向けた取り組み ② 子ども家庭総合支援拠点の相談支援体制の機能強化 ③ 民間団体、教育機関との連携による相談支援体制の強化	○福島市で子育てをしたいと思うような施策、地域全体で子育てする社会風土の醸成が必要。 ○妊娠、出産、子育ての支援（サポート）体制の強化が必要。 ○子育て世代同士、各世代間の交流により、「助け合い」「お互いさま」の精神を育むことが必要。 ○IT化をはじめとする時代のニーズにあった豊かで質の高い学習環境の整備と格差のない教育機会の確保が必要。 ○地域を学び、誇りを持ち、新しいもの（こと）を創造できる教育が必要。 ○学年や学校を超えた交流など、「多様性」を生む環境づくりが必要。 ○子育てや教育を担う人材の確保と質の向上、待遇の改善が必要。
2 暮らしを支える安心安全のまち	(2)	復興・創生のための放射線対策・風評払拭などの充実	① 正しい知識を普及するための情報発信 ② 内部・外部被ばく検査、相談事業 ③ 観光、農産物における風評対策 ④ 農産物への放射線対策 ⑤ 空間放射線量、食品等放射能の測定等	○市民の暮らしに丁寧さを欠くことなく、「風評払拭」等に引き続き尽力すべき。 ○全ての市民が安心して暮らせるよう、健康、医療、衛生などの知識を得る施策が必要。
	(3)	自然災害に負けない危機管理体制の強化	① 水害対策パッケージによる浸水被害の発生及び拡大の防止 ② 地域防災力の強化	○気候変動にも対応した地域の防災・減災意識を高める取り組みの強化が必要。 ○災害情報を市民に的確、迅速に伝える新しい仕組みづくりが必要。 **○災害弱者への対応など、「防災・減災対策の強化」は待ったなし。** **○新型コロナウイルスと想定を超えた自然災害の2つの社会現象をもっと意識するべき。**
	(4)	安心して暮らせる福祉と医療体制の充実・強化	① 感染症に係る移送体制の強化 ② バリアフリー推進パッケージによるハード・ソフト両面の取り組み	○新型コロナウイルスを踏まえた新しい感染症対策が必要。 ○医療体制を充実強化するべき。 ○高齢者、障がい者、外国人への支援が必要。 ○超高齢化社会を見据えた、互いに支え合う地域づくりの推進が必要。 **○命を最優先にする姿勢が大切。** **○病気の治療と仕事を両立させることが今後の大きな課題。** **○「高齢化社会の課題を解決する」こと軸に全てを考えていくべき。** **○新型コロナウイルスと想定を超えた自然災害の2つの社会現象をもっと意識するべき。【再掲】**
3 次世代へ文化と環境をつなぐまち	(5)	福島から発信！新しい文化芸術の創造	① 古関レガシーの伝承とまちづくりへの活用 ② 福島から発信する縄文文化 ③ 新たな文化芸術活動拠点の整備 ④ 文化芸術活動を担う人材の発掘・育成 ⑤ 文化芸術による交流人口の拡大	○新たな文化の創造に向け、今ある文化の定着と認知度を高めることが必要。 ○世代間交流の充実により、次世代へ豊かな文化が繋がる。 ○各家庭、地域でできない世代間交流を行政が施策として取り組むべき。 ○市民一人ひとりが”つなぐ”当事者意識を持つ方向づけが必要。
	(6)	脱炭素社会の実現と循環型社会の形成	① 水素社会の実現に向けた取り組み ② 脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギー関連の取り組み ③ 河川や水道施設が持つ位置エネルギーを利用した小水力発電の推進 ④ 森林の整備、森林資源の利用、森林空間の利用に関する取り組み ⑤ 自己水源（土湯、高湯、茂庭）を含めた良質な水道水の安定供給	○地域の特性（自然環境、景観等）に合わせた、再生可能エネルギー等の導入の促進が必要。 ○市民一人ひとりが”つなぐ”当事者意識を持つ方向づけが必要。【再掲】 **○福島市が誇れる自然をどのように盛り込むかが他都市と異なる独自のポイントとなる。**

基本方針	重点施策（素案の案）（案）		重点施策の内容（イメージ）	ふくしま新ステージ有識者懇談会からの主な意見（4/27、7/28）
4 産業とにぎわいを生み出す活力躍動のまち	(7)	「人」と「活力」であふれる 産業のグレードアップ	① チャレンジ・フィールドの拡充 ② 新たな工業団地の造成と企業立地の促進 ③ 農産物の付加価値の向上 ④ 農業後継者支援	○新たな産業クラスターの創出や企業の発展による雇用創出により、「人が住み続けられる」賑わいをつくるべき。 ○商工会や産業界、大学の連携強化による、新たな推進力の模索が必要。 **○農業（農家）では後継者や法人化の課題を抱えている。** **○人の移動や流通の途絶等の緊急時に備え、市内、域内、県内で社会・経済を動かす新たな仕組みの構築が重要。**
	(8)	「花」と「音楽」に包まれた 回遊性の向上	① 街なか回遊性の向上 ② ふくしま花回廊の推進 ③「古関裕而のまち・ふくしま」シンフォニーの展開 ④ 魅力ある地域資源の発掘と活用	○文化を通した都市間交流、交流人口の拡大が必要。 ○周辺市町村と連携した広域観光の推進が必要。 ○福島駅東口の再開発を中心とした、行って楽しい新しい中心市街地をつくるべき。 **○花も音楽も多くの人を結んでいる。文化施設も世界に自慢できる。それらを多くの方に知っていただく発信が必要。**
	(9)	移住・定住に向けた 支援・受入体制の強化	① ライフステージに応じた結婚支援（結婚への支援・結婚してからの支援） ② 若年者定着・定住支援 ③ 創業者支援による定住・2地域居住型ワーケーションの推進 ④ テレワークに適した環境整備	○「よそ者」に市政に参画してもらう施策により、新しい人材の確保や交流・定住人口の増加が図られ、まちの賑わい創出に繋がる。 ○IT企業や起業家、エンジニア等が首都圏ではなく地方で仕事をしたいと考える動きがあり、豊かな自然や観光資源があり、首都圏との時間的距離が近い福島市に、事務所やワークスペースを誘致できる可能性がある。 ○人口のバランスが大切であり、生産年齢人口、若者、出生者数の人数を増やす施策が、新ステージへの挑戦になる。 **○新型コロナウイルスの影響により、人口減少対策として打ち出されてきた「交流人口や関係人口の拡大」は極めて困難。一方で、テレワークの推進、地方の価値の見直し等が進み、「移住・定住の促進」という本来の目的に追い風が吹いている。**
5 新ステージに向けて共創・挑戦・発信するまち	(10)	市民との共創による 新しいまちづくりの実現	① 各地域のまちづくりに関する目標設定の段階からの市民との連携 ② 各地域の新しい魅力や価値を創出するまちづくりの推進	○市と市民が語り合う場、市民同士が活動する場、誰でも提案・挑戦できる環境等をつくるべき。 ○若い世代を市政に参画させて当事者意識を育むことが必要。若い世代は発信力もある。 ○若者が集い、チャレンジすることができる魅力あるまちづくりが必要。 ○「よそ者」に市政に参画してもらう施策により、新しい人材の確保や交流・定住人口の増加が図られ、まちの賑わい創出に繋がる。【再掲】 ○商工会や産業界、大学の連携強化による、新たな推進力の模索が必要。【再掲】 **○「共創」の考え方は目的ではなく、重点施策の上位概念として「重要な視点」に加えるべき。**
	(11)	世界への挑戦・発信による 都市ブランド力の向上	① 福島イノベーション・コースト構想と連携した新たな研究開発や産業集積等 ② 広報に関する民間ノウハウを活用した情報発信力の強化 ③ 戦略的なシティセールスの推進	○新たな産業クラスターの創出や企業の発展による雇用創出により、「人が住み続けられる」賑わいをつくるべき。【再掲】 ○情報発信力をさらに高める大胆な戦略をまとめるべき。 **○花も音楽も多くの人を結んでいる。文化施設も世界に自慢できる。それらを多くの方に知っていただく発信が必要。【再掲】**
6 効率的で質の高い行財政経営	(12)	ICTを活用した 先進的市民サービスの充実	① スマート窓口化等による市民サービスの向上 ② 新しい生活様式に対応したICTの活用 ③ 地域のICT化推進 ④ 業務効率化の推進	